

入選 福岡県 納富 由美子 様 (60代 女性)

私は現在、特別支給の老齢厚生年金を受給しながら、定年再雇用制度を利用して働いています。再雇用で給料は大幅カットとなり、2カ月に一度の老齢厚生年金が何とか赤字を補てんしてくれる頼もしい存在になっています。

年金の存在について考えるようになったのは、会社の同僚の年金手続を初めて手伝った時です。当人は60歳になっても受給の資格を満たしていませんでした。本人は年金について全く無知で、60歳になれば皆年金が貰えるものと思っていたらしく、若い頃に年金を掛けていない期間があったことさえ知らなかった様です。それ以来、自分も年金受給年齢に近づくこともあり、もっと年金について勉強しなければと思うようになりました。

思い返せば年金の給付の事など全く興味もなく無知だった頃、お盆の15日郵便局のATMの前に大勢の人が列を作って、なぜか年配の方がほとんどだったので、今日は何の日だろうと不思議に思ったことがありました。今、2カ月に一度の年金の支給日を何よりも待ちわびている自分があの日々の光景と重なります。支給日の朝、さっそく預金通帳を記帳し、印字された年金の文字と入金欄の5桁の数字を誇らしく、愛おしく眺めます。ずっと共働きで頑張ってきた自分へのご褒美のように思われて、給料とはまた違う有難さをかみしめて支給日を待ちわびます。

昨年97歳で亡くなった母は、なくなる3カ月前まで支給日には姉に郵便局まで連れて行ってもらい、自分の手で年金をおろしてそれは嬉しそうだったのを思い出します。自営業で給料をもらったことのない母にとって年金は唯一の自分の収入で有難さもひとしおだったと思います。お父さんが年金をちゃんと掛けてくれたから安心して病院通いもできるとよく言っていました。年金で子供に、孫に、ひ孫にと嬉しそうにお小遣いを渡していた姿も今は懐かしい思い出です。

年金を受け取れるようになって私が一つ後悔していることがあります。それはまだ私が結婚したばかりの頃で、パート勤務を始めたとき、その時代には珍しくパートも希望すれば年金加入が可能だったのに、目先の手取りしか考えず、みすみす年金に加入できたチャンスを捨ててしまったことです。まだ老後のことや、将来は年金を頼りに生活していく事

など全く頭にありませんでした。年金を受給できる歳になって初めて、もっと年金について勉強しておけばよかったとつくづく思っています。

私は60歳から特別支給の老齢厚生年金を受給し、65歳からは基礎年金も受給できる予定ですが、今後ますます高齢化が進み、年金を受給できる年齢が引き上げられていきます。それと共に若者の年金離れも多くみられると聞いております。将来歳をとって働けなくなった時、やはり頼りになるのはコツコツと掛けてきた公的年金です。今の若い人たちが本当に年金の有り難さがわかるのはまだまだ先ですが、早いうちに年金のことを勉強して、長い老後において公的年金の必要性を少しでも理解してもらえたらと思います。

私も後数年で夫婦の年金だけに頼る生活が待っています。有難い年金を長く受け取れることを楽しみに、主人と共に長生きできたらと思います。